



Title	世界に示そう健康大阪：外国人の目で見た日本の公衆衛生
Author(s)	ブラウン, エ フランク; アマノ, ジュディ; スクルス, パウロ 他
Citation	大阪公衆衛生. 1970, 24, p. 9-18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84345
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

世界に示そう健康大阪

外国人の目で見た日本の公衆衛生



行天(司会) ご存じのとおり万博が間もなく開会ということでございます。いままでとかく東京の陰に隠れておりました大阪が、現在世界では最も著名な日本の都市になりかわりつつあります。そういう大事な時期を

迎えました大阪を、一体日本人以外の外国の方たちはどういうふうにごらんになっているだろうか。もちろん大阪だけということじゃなくて、日本全部をごらんになった印象というのが主力になると思いますが、特に大阪として間もなく世界からたくさんのお客さまをお迎えしなければならないときに、一体わたしたち常識的に知っているような大阪の町の感じと、あるいは簇の問題にまでひっくるめまして、忌憚のないご意見なりあるいはご忠告を伺えたらというわけで、これからパネルディスカッションを行ないたいと思います。

皆さまのほうからごらんいただきまして左側がブラウン先生です。ブラウン先生はもう日本に20年おいでになっております。それから次の女性がアマノさんで、カナダからおいでの方で、まだ日本は10ヵ月の方です。次がスクルスさんでベルギーの方でございますが、13年ほど日本の生活をお送りになっております。次がゴンザレスさんで、キューバからお越しになっておりますが、もう13年ほどで、もちろんたいへんお若く見えますがもうママさんでございます。それから右は、日本にもう50数年お住まいの(爆笑)古野先生でございます。

ブラウン先生はお医者さんでいらっしゃるし、アマ

ノさんはお嬢さんだし、スクルスさんは神父さん、それからゴンザレスさんはお子さんをお持ちの奥さんでいらっしゃいます。

■衛生的には安心できます

ブラウン 万博を前にしていま、ときどき、自分の国の方ばかりでなく、ほかの国の方も電話で私は聞いて、まあいろいろなことを聞きます。一つは、「英語できる先生知りたいです、病気だったら」。もう一つたいへん多い質問は、「水飲むことができますか?大阪の水道の水」「それ十分できます。日本どこでも、田舎の町でも水はたいへんきれいですから、どうぞ安心して飲んでください」。または、食べもの、特に野菜もなまで食べるもの、「それ安心して食べることができますかしら?」そういうクエッション多いです。外人は日本考えるといつも、エイジャ……アジアですか?日本語。エイジャー、まあシナ、韓国、南太平洋の国と同じように考えます。けれども日本は全然違います。衛生的といえば、私は安心で、その人にそういいます。まあそういうことがときどきあります。

司会 まあ相当程度、誤解をされているという気持ちは持っていたんですけども、アマノさんなんかはこっちへおいでになる前に、そういう食べものの点やなんかでは、どういうふうにお感じになっていらしたですか。

アマノ そうですね、カナダって、まあ日系の人はね大体御飯やらおしんこやらね、そういうの食べてますし、あの、マグロやらね。そういうのは珍しくないんです。でも最初、珍しい国ですから、何も知らなか

ったし、ちょっと水の飲み方やね、そういうのちょっとこわかったね。

司会 スクルスさんは？



スクルス 私の国から見える客はほとんど小さい旅館です。泊まりに行くし、食事の高いレストランに行かないんです。そこ行くのはアメリカのお客さんじゃないかという意見持っています。(笑声)そして私の

の人は非常に日本人のほんとの生活を知りたいし、小さい食堂に入ります。そしていろんな食事ためしたいという気持ちありますので、まずさしみとかおすしを食べに行くわけです。そのときは、大きなレストランだったら炊事場ですか、食事つくるところ、見えないうんですけども、小さいところ行くとよく見えます。そしてそこはあまり清潔じゃないというような(笑声)感じします。もちろん大きなところへ行ったら見えないし、また非常にちゃんとしてますけれども、うどん屋さんとかそのようなところに行きますので、そのところちょっと炊事場隠すほうがいいんじゃないかと。(爆笑)

司会 ありがとうございます。ゴンザレスさんは日本でどういう料理をつくってらっしゃるんですか。

■「さしみ」にはだれもビックリ

ゴンザレス いまのところ何でも食べます。けど、キューバにおったとき、日本の料理、日本人食べるも

のは何にも、どんなもの食べるか全然知らなかった。ただし、おはしで食べるだけ、それだけ。だからここ来たときもびっくりしましたね。いろんなこと、いろんなもの…たとえばね、おさしみでしょう、お魚なまで、まあそんなもの食べるなんて思わなかった。(笑声)だから、まあそういうところですね、すしでもなまでですね、わりあいなまの物が多いんですから、初め困りましたね。向こうはなまのもの全然食べない。だからそういうものを初めとっても食べられなかったけど、いまのところ何でも食べます。おいしいと思いますけど。

司会 あの、ブラウン先生、すしの問題とか、さしみの問題は、いつでもあげられるんですけど、先生はどういうふうにお考えですか。

ブラウン あー、私はよく食べます。それおもしろいです。国の習慣違うだけという問題です。たとえば、私のところでも、リッチモンド・バージニアも、チェサピーク・ベイ、大きい湾のすぐそばですから、もうカキが多い。このくだものじゃないですから。(笑声)あります。それはよくなまで食べます。わたくしはちょっといやです。きたない感じです。けども人々よく食べます。日本へきたらこのきれいなさしみ見たら、「何ですか？」あーロー・フィッシュ。なまの魚、ああ、いや、いや、いや、そしてわたし感じました、そのさしみ、ロー・フィッシュといわないで、何か、日本の特別おいしいものだといったら、喜んで食べるでしょう。(笑声)

司会 古野先生、どうぞ。

古野 まあ、国によっていろいろ食の習慣というのがありますが、いまブラウンさん言われたように、日本ではいわゆるカキ、オイスターですね、これは非常に外国へ輸出するのにもいやがられるから、厳重な清浄栽培——栽培でおかしいな、繁殖をして、特に外国も輸出するという習慣、衛生的にもきめられておる。それほど日本人はやはりさしみに対しましても、いわゆるカキにいたしましても、やはりなまのものと、これはやっぱり衛生的にしなきゃならんということ、日本のはその点は徹底してますね。あの衛生というものは、一視同仁に扱っておる。これはやっぱり、いま言われたのは、もうなまのものはいやだということ、これ自分の国でオイスターは自由に食べとって、日本のはさしみはちょっとあふないという点、これはやっぱりなれない習慣だと思う。まあそういうふうにして、衛生的に十分に管理されておるもの、またきれいに扱われておるものなら、これはやっぱりなれば、ある

出席者

淀川キリスト教病院院長(アメリカ)

フランク・エ・ブラウン

万国博政府館秘書(カナダ)

ジュディ・アマノ

英知大学仏文科講師(ベルギー)

パウロ・スクルス

主婦(キューバ)

アナ・ローザー・ゴンザレス

大阪府立公衆衛生研究所長

古野 秀雄

(司会) NHKチーフディレクター

行天 良雄

いは信用すればおいしくいただけるんじゃないかと思えますね。

■感心できない食肉の運搬方法

司会 スクルスさん、何かございますか。

スクルス ヨーロッパでは、アメリカよく知りませんけど、なま肉をよく食べますが、玉ねぎとミンチしてね、一緒に。そしてパンと食べますが、その肉の運送についてちょっとまた文句があります。きょうは



(ベルギー)

非常にきらわれると思いますので、頼まれておりますから、非常に日本悪く言うてくださと言われましたので、(爆笑)一生懸命考えてますが。ちょっと肉の運送見ますと、冷房車ではなくて、何とか……私たちの国では、ジャガイモの運送とよく似たもので、(笑声)そして日本では夏は暑くて、いろんなハエが飛んでいるというところを見ると、もうなま肉ということ、とっても日本だったら食べられませんかと思えます。もちろん全部冷房車ですか、その中で運んだら、まあまた別の話になりますけど。ブラウン先生のほうが、なま肉食べること、いいかどうか、ちょっとお伺いしたらいかがですか。(笑声)

司会 どうぞ

ブラウン それまた習慣ですね。私は食べたことがありませんけれども、私の医学のときは本読んで、まあベルギーは知らないですけど、ドイツのほうは、この特別の肝臓の虫の病気が、特に豚肉なまで食べるため、多いです。そういうことあるらしいです。

古野 日本ではわりあいになまのもの食べるのは、魚が多いようですね。まあ蛋白質ではいま言われたように、そういうふうなものの運搬ですが、これはやっぱりもう少し日本は丁重に扱ったほうがいいんじゃないかと思えます。いま言われたように、まあ悪口じゃないが現状ですね、これは。それでやはりそういうふうなものは、もういっぱい加工されるからというふうな見地から、わりあい荷物扱いに運送されているん

じゃないか。こういう方面はやっぱりわれわれはもう少し、食品衛生の立場から、これは反省しなきゃならん点じゃないかと思う。

■評判よくない日本の便所

司会 いまのお話、なまのさしみなり、肉なりを食べることそのものは結局国によっての習慣というようなもので、たいして問題はないわけですけども、けっきょくそういうなまで食べるもの、それから、たとえ加工しようともそういった食品の扱いそのものに対しては日本には多少問題があるんじゃないかというような御意見もあったようでございます。そうすると、食品衛生全般の扱いとか、さらに保健所的な問題になってくるんですけどもさしみと並んでまったく逆ですけども、日本というすぐ便所のことが話題になるんで、その辺の心配はお問い合わせなんかなかったわけですか。

ブラウン まあ、それは……(笑声)私はちょっとそういう心配あります。特に駅の便所、また公衆便所といいますが、そういうところは、まあところによって、町の中のところによって違いますけど、あるところはたいへん感じが悪いです。それは外人は、それは米国人、たとえば米国のきれいなとこです。ここ見たら、ああ、この感じが悪いところだったらもう日本の全国はきたない、という感じがあるかもしれません。それ心配です。ほんとそうじゃないです。

もう一つの米国人のよくわからないこと、日本の便所は水洗便所少ないですから——いまだどんふえてきますけど、まだたくさんないですから——特別の車ありますね、その車はほんとにきれいです。まあおいがありますけれどもきれいです。(笑声)外人はそれわからないですから、ときどき文句があるかもしれません。

司会 ゴンザレスさんはいま松原にお住まいですね。失礼ですけども、便所はどうなってるんですか
ゴンザレス やっぱ日本の。

■まず下水設備を完成せよ

司会 もうなれましたか。(笑声)

ゴンザレス その、においはとてもなれることできませんですからね。(笑声)けど、あの、やっぱり下水道がまだ完備してないから、やっぱり水洗便所はできないんじゃないかしら。初めそういうふうにてきたらね、また水洗便所できますと思いますけどね、いまのまま水洗便所にしたら、回りの人たちを困らせてるの

やないかしらと思いますけど。だから下水道ができてから、いまのままでないとだめじゃないかしらと思います。くみ取りちゃんと来てくれる、それしかできませんね、いまのところは。だから下水道ができてからちゃんと水洗便所にしたほうがいいですね。

司会 それまで待っていただけますか。(笑声)

ゴンザレス うーん、がまんしなければならぬいんです。(爆笑)



ブラウン そのことについて私ちょっと言いたいです。もちろん水洗便所はいいです、大阪です。けれども、その水洗便所できてから、どうぞいまのままの便所使ってください。すわるころしないでください。それ

はほんと衛生的悪いと思います。わかりますか？いま米国のトイレはすわりますね、日本はそうじゃやいですね。どう言いますか……

司会 あの、腰かけ便器としゃがむ便器ですね。

ブラウン そうそう、それはマッチ・モア・サニタリー、ずっと衛生的といえぱずっといいです。そのまましてください。(爆笑)

司会 はい、ちょっと先生お待ちになってください。スクルスさんどうぞ。

スクルス いまブラウン先生おっしゃった望みがありますけど、新しい団地つくるとき、大体西洋式の便所だそうですから、早く運動しなければ間に合いませんでしょう。(笑声)もう一つのことは、日本の個人の家のトイレ使うときは非常に気持ちがいいんです。ほとんど何か花が……まあたいていプラスチックとかビニールですけど、(笑声)そのようなものが入っていると何とか気持ちがいいということで。しかし、いま言われたように、公衆便所はあまり見せたくないところが多いということ。わたしの国のこと申しますと失礼ですけど、公衆便所全部なくなりました。それはベルギー人ががめついだからと思いますけど、公衆便所ないから、やっぱり喫茶店へ行ったり、使うならばやっぱりそこでまた何か飲んで(笑声)、また使いたくなりますので、非常に悪循環だと思います。そのことですけど。そしてもう一つのことは、日本の便所が西洋式でなくて非常に困るときあるんです。たとえばその、すねなりにひざの手術してもらってギブスはめると、もう使えなくなりますから、そこから離れた10分ぐらいのところ、ちょっと西洋式の便所あって、そこすわりに行って。でないと日本の便所入れなくなりま

したので、だから病人さんのためにやっぱりもうひとつのほうがいいんじゃないかと思いますけど。

■男女共用の公衆便所は困る

アマノ そうですね、カナダはほとんどどういうのかしら、水洗便所になっています。そして驚いたのは、わたし、においがね、日本にきたら、あのにおいですがね、それがツーンときたんです。そしてパブリックの便所——公衆便所にね、男と女が一緒に入るところがあるんです。そういうのびっくりしちゃったんです。カナダの公衆便所なんかはみんな別々になってますんですね。そしていつかわたし公衆便所に入っていて、あの一緒のとこだったんです、わたし知らなかったんです。そして入ったら男の人が入ってきたんです。もうびっくりしました。(笑声)

司会 それじゃ便所論争はもうその辺にいたしまして(笑声)、ゴンザレスさんがさっき下水のお話をなすったんですけれども、下水をひくくめるための環境衛生、おわかりになりますか？

ゴンザレス わからない。

司会 身の回りの衛生です、住まい一切ひくくめるて。ネズミでずいぶん驚かれたそうですけれども。



(アメリカ)

ゴンザレス 向こうは水道あんまりいいことないけど、下水道だけちゃんとしております。ものすごいそんなことを気にしてますからね。だからやっぱり……日本はその点はあんまり……水道とてもいいと思いますけどね、うちのほうでも。けれど、下水のほうはとってもだめですね。だからもうネズミは道歩いたらクルクルクルクル(笑声)回ってるの。すぐくはない。その下水道の出るところに私薬まいたのね、それネズミややっぱりそこで死んでたのよ。それほど多かったですね。だからそのところは薬入れたらもうネズミ死んでしまうお水流してるのにね。だからそういう点はとっても……。それで私お願いしたいのは、まだ下水道はしてないところは水洗便所しないでくださ

い。何でというたら、私の家の近くはどっかの会社の寮ありますの、あそこは水洗便所らしいけど、あそこ住んでる人はいいいと思いますけど、私たちは御迷惑やね。(笑声)すぐにおいやら出てくるです。家の前にブーッと出ていきますからね。だからまあ下水道だけ何かかしてほしいですね、やっぱり。

■公衆道徳はまったく落第

スクルス いま住んでいるところは鉄筋コンクリートだから、あんまりネズミの祭りがございません。けれども、日本の家がもし木造だったら、入りやすいところと思います。ですから、たとえば日本の家に泊まることになる、ときどき夜は頭の上で何をしてくか(笑声)、ネズミが遊んでるということで、ネズミの天国だと、日本で。そしてまあ非常に運動してますのでだんだん少なくなると思います。食料に対してもやっぱり衛生的ではないということで、衛生局のほうが一生涯懸命だと思いますので、非常に効果的だと思います。

ブラウン 万博のときも5千万人ですか、6千万人ぐらい来ますから、どうしてもごみ箱を十分準備しなければならぬと思います。そのPRも大切だと思います。まあ米園でもよくPRありますね、道ばた、また公園で、またいろいろなところでたくさんのポスター書いて、そして「きれいにしてください」ということを書いて。

スクルス そうですね。簡単に言えば公衆道徳の問題だと思います。もちろんいろんな見方がありますが、私が日本に来て一番びっくりしたことは、映画見にいったとき、映画館の中で書いてありますように、「ノー・スモッキング」。たばこのんではいけないけれども、ちゃんとのんでますということ(笑声)、非常にびっくりしましたことなんです。

そしてもう一つのびっくりしたことは、いま衛生と関係あることですが、13年前のことですが、汽車に乗ると弁当箱ちゃんと捨てますね、自分のすわってるところ、席の下。(笑声)そして一時間ごとにゴミ屋さんですか、国鉄の方がちゃんと掃除しにきてくれるということ。それ非常に私たち外人としてびっくりすることなんです。だからたばこのんではいけないということと同じように、汽車乗ると…いま新幹線ちゃんとできてますけれども、弁当箱捨てるどころ。

もう一つのびっくりしたことは、道で紙を燃やすということ。そのような習慣。紙あまり多くて運んでく

れないというようなことだと思いますけど、道でもうちゃんとたくんです、燃やすわけです。非常にこれおかしいなと思ったことなんです。

もう一つの悪い習慣見つけたのは、たくさんの方、自動車持っている。自動車の中に灰皿みたいなものがあるのに、外へ捨てるわけです。(笑声)そして夜になると、何回も見ましたことですが、赤信号



(アメリカ)

になっている、とドアまであけて灰皿ちゃんと捨てて(笑声)、青くなるとまた出発して。(爆笑)そして非常にこれは道徳の問題だと思います。だれも見えてないからとか、だれにも迷惑かけないとか…いや、少なくともゴミ屋さんに迷惑かけると。(笑声)風もひどいときありますから、全部あちこち飛んでいきますので。

そして、またあとで出る話と思いますが、教育と道徳と、続いて申し上げますけど、日本人の方、非常にPRを上手にやると効果的なんです。たとえば、また外国からいらっしゃるときびっくりすることは、横断歩道を渡るとき皆手を上げるということ。皆写真をとるんですよ。それ非常にPRによって皆すなおだということね、従順ですね。(笑声)ベルギーでやってみたら、もう絶対だれも手上げませんね(笑声)、手を上げなさいといわれてても。ですから日本では上手にPRするのわりあいすなおな心を持っていますので(笑声)、ちゃんと手を上げて渡ります。(笑声)ですから同じように、小さいときからごみ捨てることに対するきびしい教育とか、上手なPRしたら非常にいいと思います。

■どうして葉が好きなのか？

司会 積極的な意味では葉の使い方とか、積極的な意味では葉の使い方とか、そういう問題は先生のほうはどういうふうにとらえてらっしゃいますか？

ブラウン それはいろいろな考えがあります。私が感じたことは、日本の家庭、使った葉はかなり多いと思います。けれども、はっきり数もお金のこと知らな

いで、人によってどのぐらい、1年に何千円使いますけど。病院のことよく知ってます、病院の入院患者の1日使った薬は、日本の患者は米国の患者より倍ぐらいの薬使います。そしてたぶん家庭の薬も米国よりずっと使います。いまはだんだん米国の政府はきつくなりました、薬のことについて一般の人買うことのできる薬。

司会 そうすると、これ1錠飲んだら疲れもなおる、目もなおる、足もピンとする、全部がよくなるというような日本式な書き方は全然もう認められてないわけですよね。

アマノ そうですね、カナダも同じですね。あんまり薬って、お医者さんがあんまり誘わないですね。私こちらへ来てから疲れたんだと思います。ですけど、お腹をこわしちゃって、そしてびっくりしたのが、お医者さんが5種類の違った薬を飲んでください、といわれたんです。そしてこれを3日ほど続けて、そしてほかのものをまた、何か違ったのをくださったんです。それですごく薬って簡単にくださって、びっくりしました。

ゴンザレス 向こうは家庭の薬っていえば、まあ子供、ビタミンとかよく飲みます。それから御飯もっと食べるための薬。けど、これはみんなちゃんと小児科の先生から……何と言うの？

司会 処方せんですね。

ゴンザレス そうです。それはちゃんと置いといてますが、ちゃんと先生から。それから頭の痛いとか、赤チンとか、それしか置いてないですね。だから日本人はよく薬飲みますと思いますね。

■ビタミンと注射の大流行

スクルス 確かに日本ではビタミンの宣伝がよくしてあるので、ビタミンのノイローゼが……みなビタミン飲まないといけない、と。(飲んでいますか！)(爆笑)という、三船まで御協力してるので…。ビタミンなんか食事の中にあるはずだということで、ベルギーあたりはビタミンの宣伝一つもないんです。そして私の兄が薬屋で、この間帰国したとき、「ビタミンどうですか」「少ししか売れないんです」と。そして売るのはまた日本から来たビタミンですって。ですからビタミン、食事の中にあるはずだということ。あまりそんなことないと思います。

ですから兄に聞いたら、どのような薬売っているかというと、まあたいていベルギーであまりにもおいしいもの食べるから、高血圧に対する薬が多いというこ

とと、神経剤ですか、何というんですか、日本語で、鎮静剤ですか？睡眠剤に近い……。

司会 鎮静剤。

古野 あるいは精神安定剤。

スクルス そう、精神安定剤。だからちょっと向こう狂ってくる(笑声)、ということで、それ一番売っている。ですからあんまりビタミン売らないということ。そしてもう一つは、私もときどき医者に行かなければならないけれども、すぐ注射、注射、何でも注射ということ。(笑声)注射、向こうほとんど受けてないですけど、日本に来たら、どこか、髪の毛が少なくなるから注射(爆笑)、すぐ注射したということ。

ブラウン それはもちろんその先生の注射、必要ならばしかたない、受けなければならないです。(笑声)また薬が必要だったらば、先生の薬。けれども一般の人ではできるだけ薬は飲まないほうがいいと思います。特にビタミンは悪いことじゃないですけども、むだです。私の家族も日本にもう十数年おりました。もう子供もみんな大きい、背がたいへん私より高いです、女の人も。ビタミン全然食べなかった。普通、日本の食物だけ食べてたらそういうものあんまり要らないと思います。

司会 薬の問題は非常に複雑な日本の独特の医療制度の問題もからんでおりますけれども、それとは別に日本人自身に薬好きという問題もあるものですから、この辺でやはり古野先生に。



古野 いまいへん急所を突かれたような話。〃頂門の一針。〃というようなことばが日本にあります、非常にポイントをつかんでい言われておる。たとえば、ビタミンを一例にとりま

すと、少し使い過ぎじゃないかと。で、いま言われたように、ビタミンというのはビタミンの不足な人に要るんであって、十分食物その他でとれている場合にビタミンを入れましても、みな出てしまうんです、小便と一緒に。全くむだな話。しかしそれは必要なのか、この人は不十分なのか、もう足ってるのかという見きわめができないところに問題がある。だからダッと広告が出ますと、まあ飲んどこう、毒やないから飲んどこう、ということになるんじゃないか。

根本の問題は、医薬分業というのはことにアメリカその他のところでも徹底しておりますので、そういうふうな薬飲む場合には医師の処方によって飲むという

ことがもう外国では徹底しておりますね。日本ではお医者さんに行くまでに、あの効能を見ますと、大体自分で診断つけて薬買い入れて飲む、と。そういうふうなことで勢い薬が使い過ぎるようになってるんじゃないか。それから医者向きの薬というのがありますが、これにでもしろとがわかるように効能を書いておるんですね、日本の薬は。

いまブラウンさんあたりは、アメリカじゃ効能をあまり書かないということを言われましたが、効能はなるべく少ない薬のほうがいいわけなんですよ、ほんとは。もう何でもきくということは、何にもきかんということに（笑声）近いように感じる。だから一薬一効ということがほんとに望ましいことだと思うんです。あとは医師がそれをどういうふうに使っていくかということがほんとの薬の使い方じゃないかと思えます。要は薬をあまり乱用しないことというのがやはり一番必要になるんじゃないかと思えます。

■充実したい老人ホーム建設

司会 話が変わりますけれども、先立って平均寿命が例年よりちょっと延びが悪くなって、大台に乗せ切れなかったけれども、いずれにしても去年よりさらに少し延びている、したがって日本の老人の問題というのはやはり差し迫った問題であるわけですけれども、この問題はやはりゴンザレスさん、いま嫁姑でお姑さんと御一緒ですか？

ゴンザレス いえ、別々です。

司会 お年寄りに対してはゴンザレスさんはどういうふうにお感じになってますか？日本の。



ゴンザレス 子供おる年寄りはやっぱり子供と一緒に……子供はめんどろ見るべきと思えますけれども、向こうはちょっと違ったところは、日本は長男で言うですね、やっぱり両親のめんどろを見る。向こうはやっぱり

娘のほうがちんとお母さん、お父さんのめんどろ見ておりますけどね。それから子供のいない年寄りは、やっぱりもうちょっと、ホームあるですね、年寄りの入れるところ（笑声）、あそこ……入れるところ悪いけれども、家族のいないね。それ、もうちょっとつくったほうがいいですね。

それからとても年いったらさびしいなと思えますけど、やっぱりそんなさびしさ感じないために、いろんな仕事まかしたり、楽しくさせたほうがいいじゃない



（キューバ）

かしら。やっぱり仕事しながら、まだ私だめじゃないと思いますと思うから。それから、ゴーバルバンやっぱりお金ですね、年いって人、おこづかいみたいなもうちょっと渡したほうがいいじゃないかしら。それから会社も長いこと働いてるのに、やっぱりやめなければならぬとき、年いってからのね。ちょっと少ないんじゃないかしらんと思います、もらうお金です。

司会 定年退職金が少ないというわけですね。

ゴンザレス そうです。そういう点は向こうに比べて日本はちょっとあんまりちゃんとお年寄りのことを考えていないと思いますけどね。

スクルス いまベルギーでもそれは一つの大きな問題です。そして日本のことを考えますと、ベビー・ブームがありましたので、ベビーはいつか年寄りになりますので、30年か40年たったらたいへんな問題だと思います、日本でも。そしていまお話しありましたように、ホームとか施設、非常にベルギーでは年寄りの方は息子、娘に迷惑をかけたくないというんです。若い人の気持ち若い。ですから一緒に子供と住んでそこをじやましたくないと、みんな頭にあるんです。私たちも若いときそれ望まなかったけれども、しかしいいホーム、養老院ですか、いいものあったら喜んでいくと。そしていまとってもいいものもできました。その最低のお金は1月は5万円ですけれども、ちょっとぜいたくだったら10万円。しかしたいていお金もあるわけですから、たとえばご夫婦でもご一緒に二つの部屋もらって、そして家で使ったタンス、道具、全部そこへ持っていくって、テレビ、安楽椅子、全部そのまま捨てずにあるわけです。そして、たとえばご夫婦の場合だったら、その一人がなくなっても別にその二つの部屋一つになることはありません。同じようにして。それで非常に、たとえばそこ泊りに行くことができるくらい

の二つの大きな部屋です。そしてたいていベルギーは修道院の修道女がよく世話してあげる、みんな看護婦さんの免状とか医者の方針持っています。とっても安心です。非常に何でもめんどろを見てあげる。そして年寄りの方と一緒に午後になってトランプやったり、そしてときどき何かお祝いしたり、非常に楽しいということ。そして、そこからいつでも子供の家に行くことができますから。しかしそれでもいま足りないということで、ですから日本でも絶対足りなくなる。

司会 いまの5万円とか、あるいはよければ10万というのは、結局、全部自分でためて払わなきゃいけませんわけですか？

スクルス いえ、毎月政府からいただくとか、国から仕事した年金でいただくことができます。

■父母との同居は考えません

司会 年金で十分まかなえるわけですね。



アマノ カナダはもう政府から60になったらお金が入ってくるんです、月末に。そして60ぐらいになったらリタイアというんです。リタイアという——もうお仕事やめて遊ぶということですよ。そしてアパート、マンシ

ョンやらそういうのがお年寄りにつくってまますんです。病院でなくて、みんなお年寄りの人が、マンションがずうっとお庭がきれいようにつくって、そういうのでできますんです。そして1週間に1回皆さんパーティーしたり、お年寄りの人だけがそういうのをしますんです。ですからまあ楽しいんじゃないでしょうか、お年寄りの人。

司会 あなたの場合、お父さん、お母さんと御一緒に住むというようなことは全然お考えになってないんですか。

アマノ 全然。でもおばあちゃんは私たち——戦争のときに私生まれたとき、ずうっとバンクーバーのほうからブリディッシュコロンビアの州の中に移動したんですね。そしてそのときかうずっとおばあちゃんが住んでたんです。そしてまあ私たちまたバンクーバーに引っ越したときに、おばあちゃんは老人病院ですか老人病院に入ってますんです。そしてまあほかのお年寄りと一緒に楽しんでいますんじゃないでしょうかしら。

■うらやましい日本の親孝行

ブラウン それはもう米国も同じくらいの習慣で

す。それだから私もだんだん年をとりましたから（笑声）、日本の習慣はたいへんうらやましい。もう日本のはだんだん変わってきましたけれども、いまま米国はの習慣よりいいと思います。米国、いまミス・アマノの言われたように、老人は全然子供と一緒に住まないです。

それからいいホームがあっても、どんなにいいマンションがあっても、生きているの、わけがない場合は、たいへんがっかりするのじゃないか。そして私の考えは、やっぱり経済問題もありますけれども、考え方が一番大切です。また日本は年をとっても、また数の一つのメンバーですから、値打ちまだありますという考えあるらしいです。そして日本の老人は米国の老人よりうれしいと思います。いま米国も老人のホームふえてきました。最近では変わった考えもありました。前



(カナダ)

は老人ホームはいつも田舎に、またきれいな山のところ、また湖のところ、そういう静かな景色がきれいなところ、けれどもやっぱり老人はそこはおもしろくないです。友だちも来ないです。遠いし、町の中へ行きたいのが行きにくいですから。いまだんだんそういうホームはもう町の中心につくっています。それはいいことです。

司会 スクルスさん、ちょっと簡単にお伺いしたいんですが、もしいま伺ったように、ベルギーがたいへん老人対策が進んでるわけですが、スクルスさん御自身、日本の生活を相当御存じで、いままでの日本のお年寄りの扱いと、それからベルギーでの恵まれたお年寄りの扱い方と、スクルスさんがお年を召したときにはやっぱりどっちのほうがいいようにお感じになりますか？

スクルス 私は独身ですけども、日本の親孝行とても感心しております。だから外国から来る人、それは絶対感心しますけれども、日本の家庭に入るといつも順調にいつてるわけじゃないと思います。“鬼はば、”と言われてると（爆笑）、また困ることです。す

から人の親切さ、人の性格人の忙しさによると思います。またテレビに出るおばあちゃんのような、“信子さんとおばあちゃん”のような（笑声）人だったらうまくいくかわかりませんが、お互いの理解とかによるということ。また経済的に困っていると、なおさらむずかしい。そしてその老人のためのホームからもし仕事に出かけたい人なら出かけていいんですよ、とっても全く自由です。自分の子供に行ったり、また仕事したりして。年寄りの家だけ別にしてあるわけですから、非常に一つのいい解決かわかりませんが、ベルギーでもみな老人のホームに行くわけじゃないんです。もちろんある家庭では、家が広くて、おじいさんかおばあちゃん、こいてほしいという方もあります。

■子どもにもっと厳しくせよ

司会 子供の問題でございますが、先ほどスクルスさんが躾の問題とか公衆道徳の問題を含めてちょっとお話が出ておりましたのでけれどもスクルスさんごらんになって、日本の子供のしつけでございますね。当然道徳的な問題が多くなってくると思いますけれども。

スクルス 感じとしては、見たところで小さい子供、赤ちゃん幼稚園へ行くまでの教育というと非常に甘いということだと思います。何でも許してあげる、子供がわからないからという意味で。たとえば教会に来て祈りの間でも非常に暴れるということ多いです。そしてお母さん、別に子供に何も言わない、特に長男だったら何も言われない。（笑声）その区別またあるし。

ゴンザレス 私は子どもは二人です。向こうでも日本でも子供の躾の大事なところ、やっぱり一番は健康ですね。それから二番は、健康ですけど精神の健康ですね。その中に明るさとかやさしさとか、そういう点入りますね。やっぱり向こうのお母さん、それも一生懸命教えてあげてるけど。やっぱり向こうのお母さんから日本のお母さん見たら、少し甘いんじゃないかなと思います。

それから自分の子供はすごくかわいい、かわいいでたまらないけど（笑声）、よその子供はあんまりかわいがらないですね。（笑声）だから自分の子供が何か悪いことをしたら、「あら／＼これあの子、よその子教えたから悪いことをした」とか（笑声）、自分の子供自身悪いとは思わないんですね。

アマノ 電車やらそういう込んでるときにお母さん

たちすぐ子供をすわらすんですね、それびっくりしちゃった。おばあちゃんが……まあ孫でしたんでしょね、そしてかわいがって、子供を……このぐらいのすわるところがあったんです。子供をスンと乗せちゃって、すわらなかったんです。万博のときにそういうことをされたら、すごくこっちも困るんじゃないでしょうか、万博にくる人が。

司会 カナダだったら逆ですか？

アマノ 逆です。逆って、おばあちゃんがすわって、子供をひざに乗せたり。もしも子供さんがそばにすわったら、ほかの人が立ってたら立たして、ほかの人をすわらすんですね。そして子供さんたちはそれで平気ですから、別にどうっていいことはないんですけど。

司会 その場合、子供というのは大体幾つぐらいの子ですか？

アマノ 5歳ぐらいじゃないんでしょうか。5歳か6歳ぐらいのときですね。

ブラウン 私ちょっと言いたいです。いま日本の小さい子供は…外国人はそういう考えありますのは、お母さんはあんまり甘いですが、もうちょっと上の子供、たとえば10歳または15歳～20歳までの青年たちは、日本の社会はあんまりきびしいじゃないという考えもあります。たとえばいまはもう大学問題、そういう関係があるじゃないか。

■しつけも一つの精神衛生

司会 ぼつぼつ時間でございますので、古野先生。昔、いわゆる公衆衛生といえは躾なんかちょっと別の問題だというふうにとらえていたわけですが、先ほどからのお話で、公園、道路のごみの問題にしても、スクルスさんのおっしゃった灰皿の扱い方にしても、それからいまの子供の問題にしても、いまではもうりっぱに公衆衛生の分野なんでございますね？

古野 いままでは全くそういうようなものは衛生の分野からも考えられておらなかったんですが、このごろは精神衛生面から、ことに三歳児の検診ということを始めましてから、そういうふうなものの中に加えまして、日本では昔から言いますように、“三つ子魂百まで”と申しますが、その時分に子供の躾をかつちりやっておかないと、あるいは3歳から5歳、幼稚園へ上がるまでの間に、あるいは小学校へ行くまでの間に、もう少し家庭で母親——主として母親に対してわれわれいろいろ御相談するんですが、そういうふうな面からも子供の躾に対して十分入っていきたい。いま

それは手をつけておりますが、まだ十分にはいっておりません。非常にむずかしい問題があります。日本の子供、いまお話がいろいろありましたように、涙をふるってむちを打つことありましょ。しかしまた歯を食いしばって子供をしかなない場合もある。これは子供の盲目の愛であってはならないということ、これは非常に教育めいたことを言いますが、そうじゃなしに、これはやはり医学的あるいは心理をまじえたそういうふうな面から子供のしつけを十分やっていくということが大事じゃないか。

それから、このごろ新しい子供の病気に「自閉症」というのが出ておりますが、これもやっぱり母親の躰の問題から起こってる場合がたくさんあります。自閉症というのは新しい問題。これはまあアメリカあたりから主唱されたことばですが、日本でもそういうような子供が相当あるんです。これはやっぱり子供の躰というところからいろいろそういう病気を……これは病氣として取り上げていいと思うんですが、そういうようなものを取り上げてまいっておりますが、そのほかにもいわゆるそういうふうな特殊な疾病、病氣という扱いやなしに、達者な子供、これも精神的に見て達者と、それからだんだん一程度が何してきて病氣というところの移り変わりは非常にむずかしいんですね、精神衛生面から言いますと、しかしそういうふうなものを全体を含めて3歳児以上からは精神面からあらゆる手当を加えていって、いい躰をしていく。われわれは躰ということばを使っておりません。“精神衛生教育、”というようなむずかしいことばを使っておりますが、わかりやすく言えば躰なんですね。

■エッチなテレビは子供の敵

司会 最後に、いわゆる「世界に示そう健康大阪」というもんですから、何か示さなきゃならないので、こういう点を少し気をつけなさいという御注意でもいただければと思いますが、ゴンザレスさん、簡単にまとめたらどんな点をまず直してほしいというふうにお思いですか？

ゴンザレス やっぱり下水を……。〈笑声〉

司会 下水ですね。これは大きな大阪という全体のあるいは国という問題になりますが、個人の場合だったらどうでしょう。

ゴンザレス 私、日本へ来てから七年になりますけど、来たときといま、だいぶんよくなってるんですね。だからそれ見て驚きます。感心しております。だから、テレビでも、何か子供の見られないところ一ぱ

い出ておりますの。その点もよく考えてほしいですね。

スクルス 簡単に申しますと、マスコミを使っていることを宣伝して、PRしてそしてその中でおとなの教育だと思いますけれども。

アマノ そうですね、別に……

司会 全体まとめましてブラウン先生、一言お願いいたします。

ブラウン いまいろいろ考えありました。私も考えて、いま言ったように、ごみのこと、これは私たち全部できますから、特に公園、道ばた、高速道路の名神国道、そのようなところ、万博のところごみは気をつけて箱に入れて……これはたいへんです。そして日本、大阪はきれいに見えますから。もう一つのクエッションがあります。万博で6ヵ月の間は青年の人よく使う方法がないかどうか。たとえばトロントの万博のときは、青年の人は万博の中よく使いました。いろいろのもの衛生のことについて診療所でも使いました。案内もしました、掃除のこともしました。何百人使いました。若い人。ボーイ・スカウトばかりでなくガール・スカウト、もっと上の青年、そういうような方使ったらいじゃないかという考えます。

さて、私はいろいろと申しましたが、私は日本にケチをつけようという気持は毛頭ありません。長年住んでいる日本を私は愛しています。好きになればこそいろいろ発言いたしました。この点をご理解くださいますよう申し添えます。

司会 ありがとうございます。